

三重県の少人数教育について

1 趣旨

児童生徒一人ひとりの実態や各学校の課題に応じたきめ細かな教育を推進し、基本的な生活習慣や学力の確かな定着・向上を図る。

2 基本的な考え方

- ① 少人数学級と特定の教科における少人数指導の両面で取組を推進
- ② 生活や学習環境が大きく変わる学校種間の円滑な接続
- ③ 市町教育委員会、学校の実状に即した柔軟な対応

3 取組の概要

		少人数学級	少人数指導
小学校	1年	30人学級（下限25人）	31人以上の学級で国語、算数の少人数授業ができるよう定数、非常勤講師を配置
	2年	30人学級（下限25人）	
	3年	市町教委、各学校への配置定数を活用して少人数学級の編制が可能	
	4年		
	5年		
	6年		
中学校	1年	35人学級（下限25人）：2、3年への転用可	36人以上の学級で国語、数学、英語の少人数授業ができるよう定数、非常勤講師を配置
	2年	市町教委、各学校への配置定数を活用して少人数学級の編制が可能	
	3年		

4 少人数学級編制の概要

（1）少人数学級に伴う人員配置

- 小学校での少人数学級・・・定数1人を配置
- 中学校での少人数学級・・・定数1人、非常勤講師0.5人を配置

(2) 下限25人の設定

集団生活の中で社会性を身につけ、教育効果を上げるためには一定規模の学級集団であることが適当であり、また、下限人数を設けない場合には相当数の教員が必要となります。このため、三重県独自の少人数学級については、25人以上の学級が少なくとも1学級できる学校を対象としています。

〔例〕小学校2年生の30人学級（下限25人）

- ① 学年児童が31人の場合（標準学級1学級）
2学級編制とすると、15人、16人・・・対象外（1学級編制）
- ② 学年児童が72人の場合（標準学級2学級）
3学級編制とすると、24人、24人、24人・・・対象外
ただし、平成24年度からは、36人以上学級の解消により3学級編制
- ③ 学年児童が73人の場合（標準学級2学級）
3学級編制とすると、24人、24人、25人・・・対象（3学級編制）

(3) 平成23年5月1日現在の学級編制の状況

標準法（小学校1年生35人、小学校2年生・中学校1年生40人）どおりに編制した場合の学級数と、本県独自の少人数学級により編制した場合の学級数を比較すると、以下のとおりとなっています。

	標準法どおりの学級編制			本県独自の少人数学級編制		
	30人以下の学級数(中学校は35人以下)	全学級数	割合	30人以下の学級数(中学校は35人以下)	全学級数	割合
小学校1年	472	641	73.6%	594	673	88.3%
小学校2年	313	590	53.1%	585	673	86.9%
中学校1年	283	501	56.5%	521	563	92.5%

5 本県における少人数教育の歩み

年度	小学校	中学校	小中学校	県単独措置	
				定数	非常勤
H15	1年30人学級 (下限25人)	—	少人数授業等を実施 するための教員を配 置	56	176.6
H16	1・2年30人学級 (下限25人)	—		0	220
H17		1年35人学級 (下限25人)		0	210
H18		1年35人学級 (下限25人) ※2・3年への振替可		10	
H19				20	
H20				34	
H21				43	
H22	↓			52	
H23	1年国35人学級編制 +1・2年30人学級 (下限25人)			52	↓
H24	↓ 2年36人以上 学級の解消	↓	↓	52	210

6 少人数学級実施校における効果と課題

本県では、少人数学級編制を実施している学校を研究指定校と位置付け、毎年、少人数学級の効果や、課題等の報告を求めています。

(1) 効果

- ・ 少人数での授業を実施することで、授業中の発表回数が増えるなど児童生徒が意欲的に学習に取り組むようになった。
- ・ 一人ひとりに目が行き届くようになり、子どもたちの理解度やつまずきの状況がこれまで以上に把握でき、個々の子どもに応じた指導ができるようになった。
- ・ 担当者が指導内容、教材等について話し合うことにより、指導方法の工夫、充実につながった。また、子どもを多面的にとらえることが可能となり、より効果的な生徒指導につながっている。
- ・ 習熟度別のグループ編成を実施することで、発展的、補充的な学習活動が展開しやすくなり、子どもたちのニーズに応じた授業が実施できた。
- ・ 児童生徒・保護者へのアンケートを実施した学校では、「授業が楽しい」「授業がわかる」と答えた子どもが増えている。また、「質問がしやすくなった」「個別に声をかけてもらうことが多いのでうれしい」「自分にあった問題に取り組めるのでいい」等の肯定的な意見が多く寄せられている。保護者からも少人数指導を歓迎する声が届けられ、少人数教育の継続、拡充への期待が寄せられている。

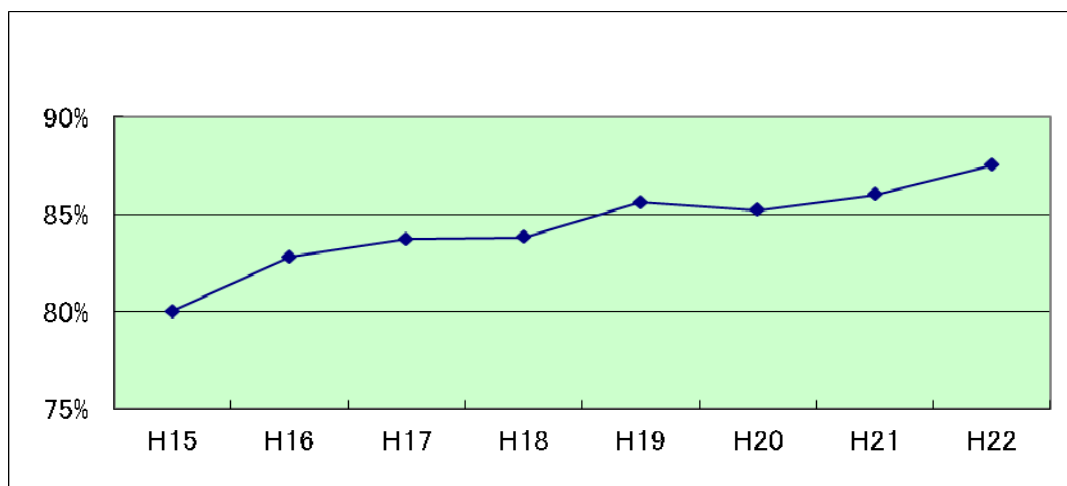
(2) 課題

- ・ 少人数授業を担当する教員間の打ち合わせや研究のための時間確保が難しく、校務分掌の見直し、会議の効率化、学級事務の効率化等をより一層行う必要がある。特に非常勤講師との情報交換の時間確保が難しい。
- ・ 少人数教育を実施することで、教員1人当たりの持ち時間数が増え、中には緊急、突発的事態に対応できる教員がほとんどいないという状況もある。
- ・ 特別な支援を必要とする児童生徒に対しては、少人数指導の場面においてもさらに個別の対応が必要となる。

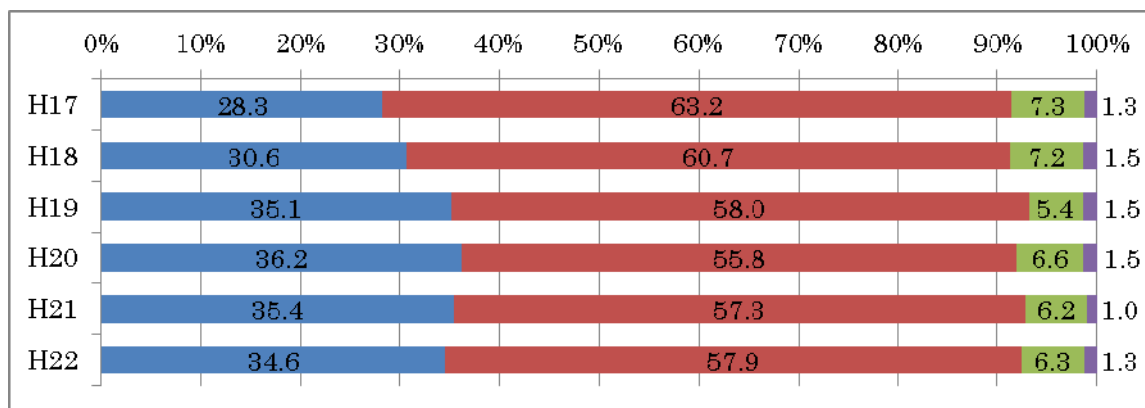
《参考1》 授業内容を理解している小中学校児童生徒の割合

○ 小学校5年生、中学校2年生を対象とした「学校満足度についてのアンケート」のうち、「授業内容がよくわかりますか」との質問に対して、「よくわかる」、「だいたいわかる」と答えた割合

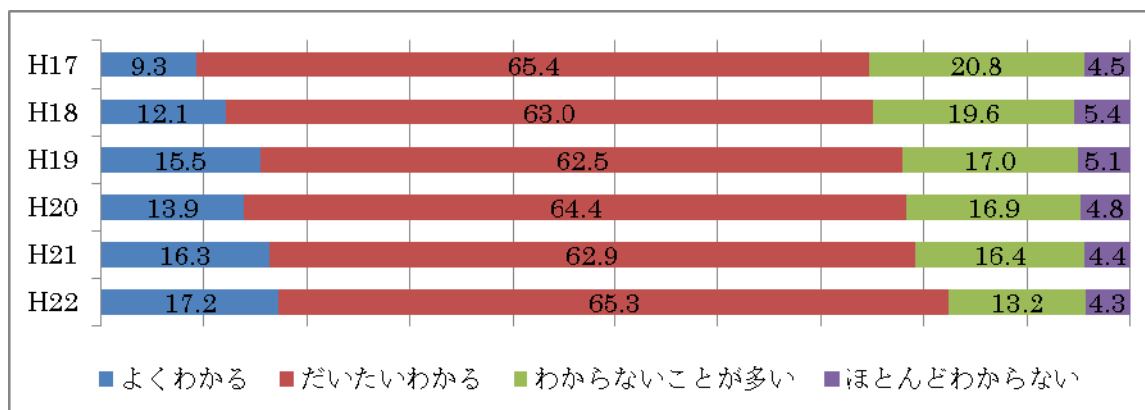
年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
割合	80.0%	82.8%	83.7%	83.8%	85.6%	85.2%	86.0%	87.5%



小学校



中学校



《参考2》 少人数学級実施校での児童、保護者へのアンケート結果

A小学校 児童を対象としたアンケート

アンケート項目	H21年度 4年生時(2学級)	H22年度 5年生時(3学級)
授業はわかりやすい	82%	93%
授業や学級会で意見が言える	56%	58%
学校は楽しい	88%	92%
困っている友達がいたら助ける	83%	86%

※ 「はい」、「どちらかといえばはい」と答えた割合

B小学校 1年生の保護者を対象としたアンケート

アンケート項目	H21年度 1年生(66人で2学級)	H22年度 1年生(80人で3学級)
子どもたちは楽しく学校に行っている	90%	100%
基礎的・基本的な力が身についている	87%	100%

※ 「よくあてはまる」、「あてはまる」と答えた割合

C小学校 全保護者を対象としたアンケート

アンケート項目	少人数学級を未実施 1・3・4年生の平均	少人数学級を実施 2・5・6年の平均	学校 全体
子どもは学校へ行くのが楽しいと言っているか	87%	93%	90%
学校は子どものことをよく理解し子どものよさをのばそうとしているか	77%	89%	83%
学校はお互いのよいところを見つけ、みんなの中で認められる場をつくり、仲間づくりに努めているか	83%	91%	87%

※ 「そう思う」と答えた割合

《参考3》 少人数学級・少人数授業実施校への定数等活用状況調査（平成23年度）

◇ 少人数教育のための教員加配を活用し、少人数学級編制や少人数授業を実施した学校を対象に調査を実施

対象 小学校 258校 / 本校数 390校 (66.2%)
 中学校 137校 / 本校数 164校 (83.5%)

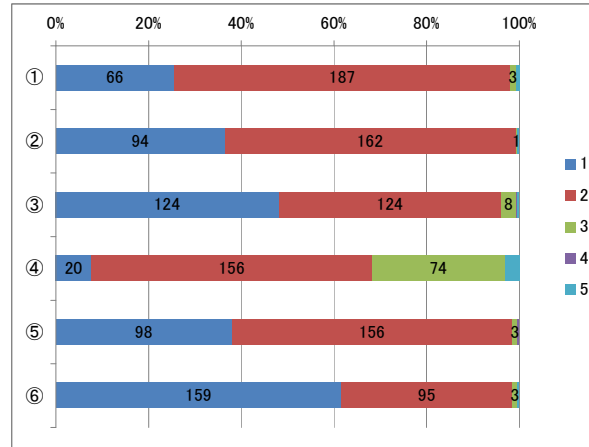
- ◇ 各設問に対し、右の1～5を選択
- 1 とてもそう思う
 - 2 そう思う
 - 3 あまりそう思わない
 - 4 そう思わない
 - 5 わからない

A 児童生徒の変容について

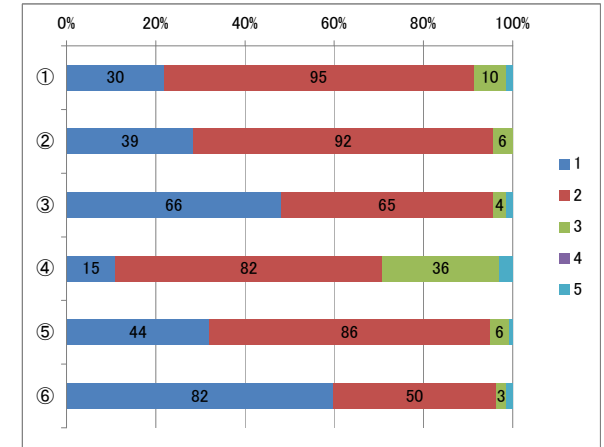
【学習面】

- ① 総じて児童生徒の学力が向上した。
- ② 授業につまづく児童生徒が減った（学力の底上げが図られた）。
- ③ 発言や発表の機会が増え、児童生徒が積極的に授業に参加するようになった。
- ④ 発展的な学習に取り組める児童生徒が増えた。
- ⑤ 基本的な学習習慣の定着が図られた。
- ⑥ 授業中の私語や立ち歩きが減るなど、授業への集中度が増した。

小学校

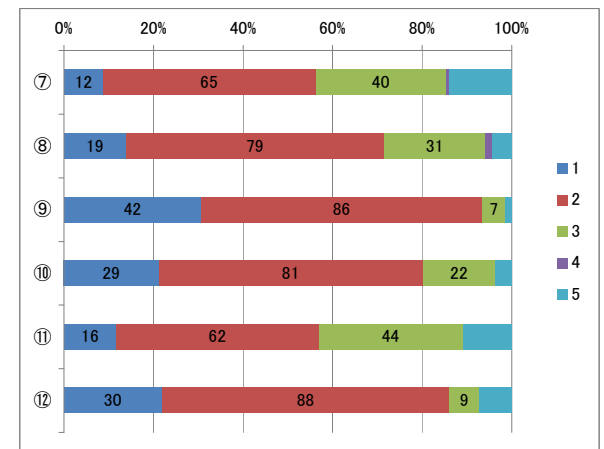
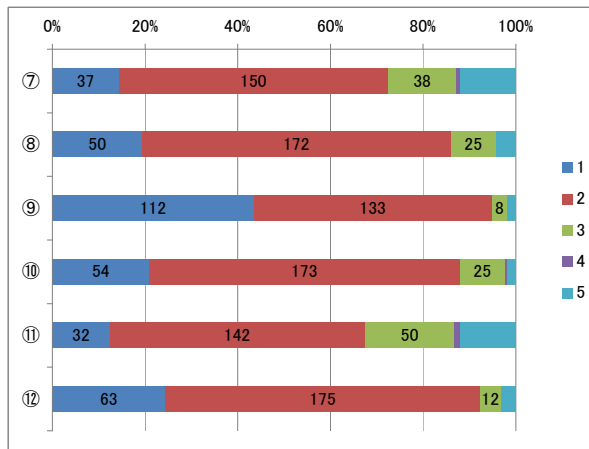


中学校



【生活面】

- ⑦ 不登校やいじめなどの問題行動が減少した。
- ⑧ 児童生徒の基本的な生活習慣が身についた。
- ⑨ 子どもたちが落ち着いて学校生活が送れるようになった。
- ⑩ 子ども同士の話し合い活動がうまくいくようになった。
- ⑪ クラス全体の中で自分の果たす役割が多くなり、自治活動がより活発になった。
- ⑫ 学級・学校に対する満足度が向上した。

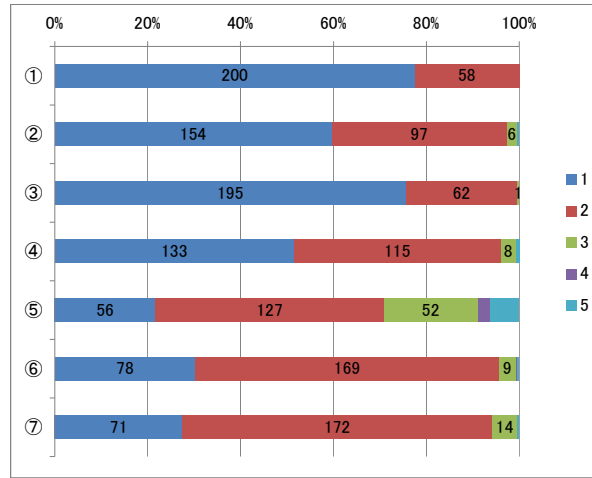


B 指導上の効果について

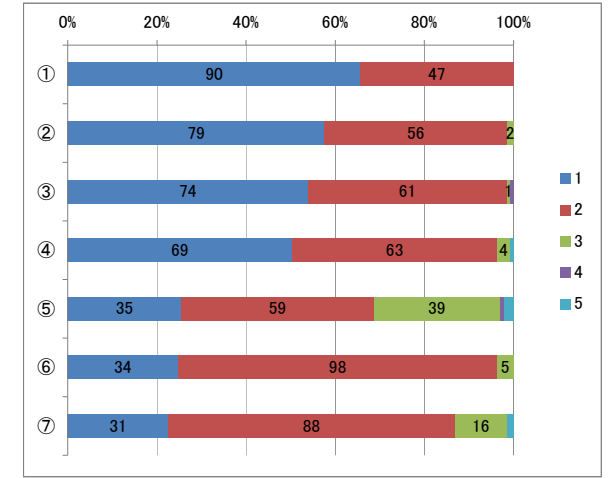
【学習面】

- ① 一人ひとりの進み具合を把握しやすく、それに合わせた指導がしやすい。
- ② ノート指導、作品へのコメントがていねいに行える。
- ③ 定着に時間がかかる子どもへの個別指導がしやすい。
- ④ 授業の中で一人ひとりの発言を大切にできる。
- ⑤ 教室のスペースに余裕ができ、多様な学習活動ができるようになった。
- ⑥ 子どもたちの適正な評価につながった。
- ⑦ 教材研究、指導内容の充実につながった。

小学校

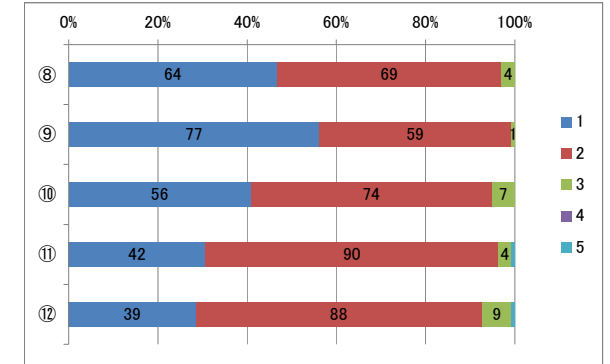
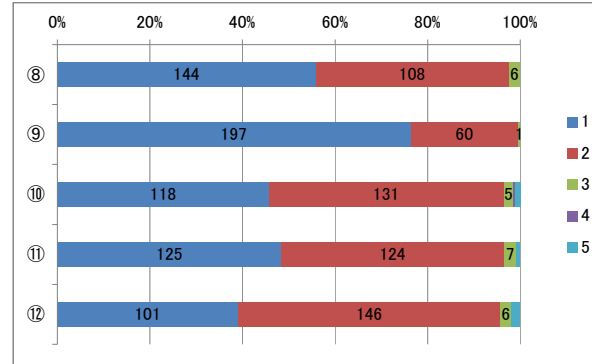


中学校



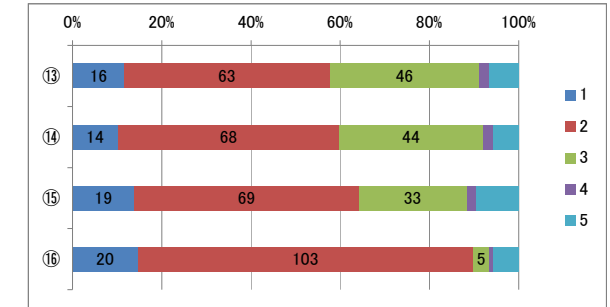
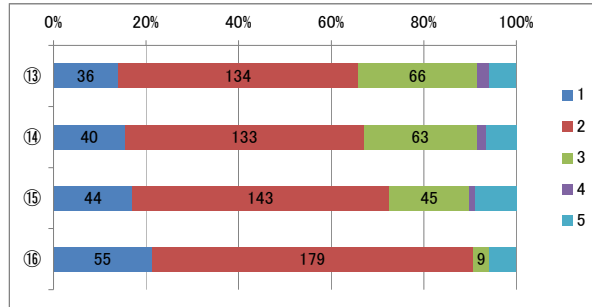
【生活面】

- ⑧ 子どもの話をじっくり聞くことができる。
- ⑨ 配慮を要する子どもに細やかな対応ができる。
- ⑩ 子どもたちとの接触時間が増え、良好な人間関係を築くことができる。
- ⑪ 子どもたちの体調の把握や細やかな対応ができる。
- ⑫ 子どもたちの多面的な理解につながった。



【その他】

- ⑬ 校務分掌、学校運営の充実につながった。
- ⑭ 危機管理、安全管理に対する体制の充実につながった。
- ⑮ 保護者や家庭との連携が以前より密接になった。
- ⑯ 保護者の学校に対する満足度、信頼感が向上した。

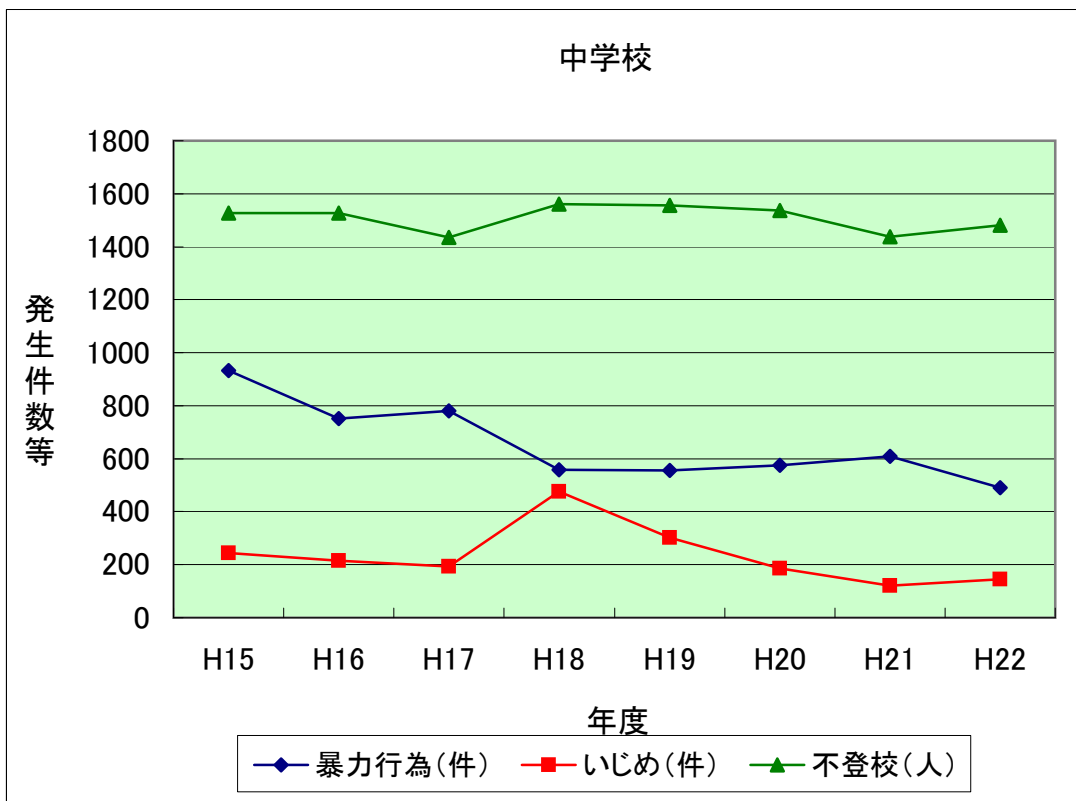
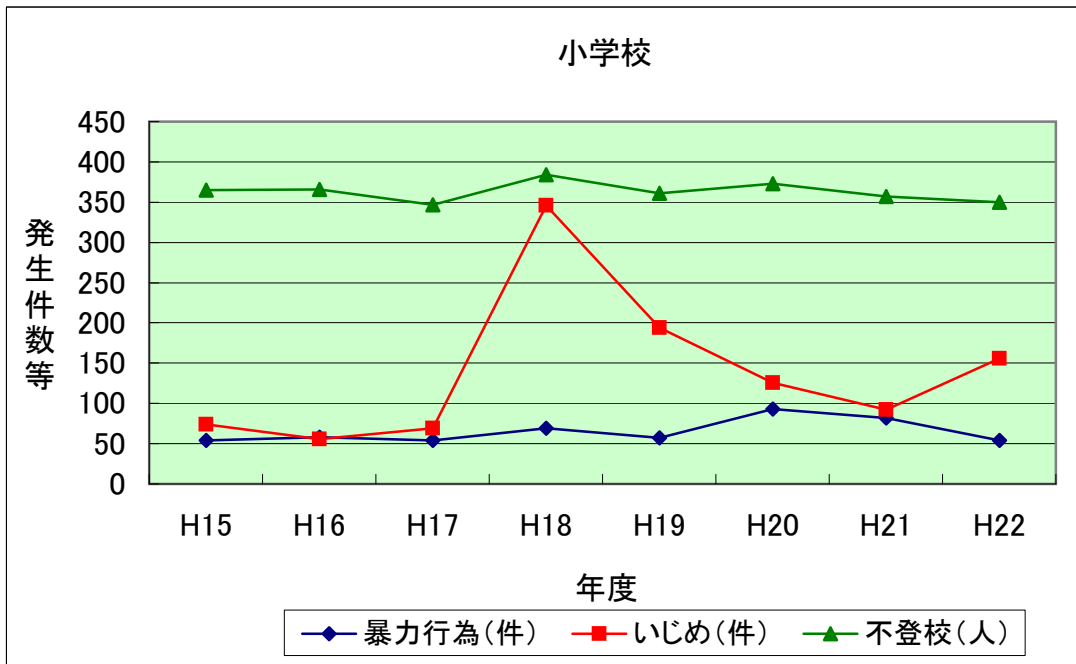


《参考4》 暴力行為、いじめ、不登校の推移

※ いじめについては、H18年度調査から定義が改められ、発生件数から認知件数に変更

小学校	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
暴力行為(件)	54	58	54	69	57	93	82	54
いじめ(件)	74	56	69	346	194	126	92	156
不登校(人)	365	366	347	384	361	373	357	350

中学校	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
暴力行為(件)	933	752	781	559	555	576	610	490
いじめ(件)	245	215	194	477	301	186	122	146
不登校(人)	1526	1527	1436	1560	1557	1536	1437	1481



《参考5》 40人学級編制（現行）と35人学級編制、30人（下限25）学級編制における学級数の比較

児童数	40人編制	35人編制	30人下限25
1	1	1	1
2	1	1	1
3	1	1	1
4	1	1	1
5	1	1	1
6	1	1	1
7	1	1	1
8	1	1	1
9	1	1	1
10	1	1	1
11	1	1	1
12	1	1	1
13	1	1	1
14	1	1	1
15	1	1	1
16	1	1	1
17	1	1	1
18	1	1	1
19	1	1	1
20	1	1	1
21	1	1	1
22	1	1	1
23	1	1	1
24	1	1	1
25	1	1	1
26	1	1	1
27	1	1	1
28	1	1	1
29	1	1	1
30	1	1	1
31	1	1	1
32	1	1	1
33	1	1	1
34	1	1	1
35	1	1	1
36	1	2	1
37	1	2	1
38	1	2	1
39	1	2	1
40	1	2	1

児童数	40人編制	35人編制	30人下限25
41	2	2	2
42	2	2	2
43	2	2	2
44	2	2	2
45	2	2	2
46	2	2	2
47	2	2	2
48	2	2	2
49	2	2	2
50	2	2	2
51	2	2	2
52	2	2	2
53	2	2	2
54	2	2	2
55	2	2	2
56	2	2	2
57	2	2	2
58	2	2	2
59	2	2	2
60	2	2	2
61	2	2	2
62	2	2	2
63	2	2	2
64	2	2	2
65	2	2	2
66	2	2	2
67	2	2	2
68	2	2	2
69	2	2	2
70	2	2	2
71	2	3	2
72	2	3	2
73	2	3	3
74	2	3	3
75	2	3	3
76	2	3	3
77	2	3	3
78	2	3	3
79	2	3	3
80	2	3	3

児童数	40人編制	35人編制	30人下限25
81	3	3	3
82	3	3	3
83	3	3	3
84	3	3	3
85	3	3	3
86	3	3	3
87	3	3	3
88	3	3	3
89	3	3	3
90	3	3	3
91	3	3	3
92	3	3	3
93	3	3	3
94	3	3	3
95	3	3	3
96	3	3	3
97	3	3	4
98	3	3	4
99	3	3	4
100	3	3	4
101	3	3	4
102	3	3	4
103	3	3	4
104	3	3	4
105	3	3	4
106	3	4	4
107	3	4	4
108	3	4	4
109	3	4	4
110	3	4	4
111	3	4	4
112	3	4	4
113	3	4	4
114	3	4	4
115	3	4	4
116	3	4	4
117	3	4	4
118	3	4	4
119	3	4	4
120	3	4	4

児童数	40人編制	35人編制	30人下限25
121	4	4	5
122	4	4	5
123	4	4	5
124	4	4	5
125	4	4	5
126	4	4	5
127	4	4	5
128	4	4	5
129	4	4	5
130	4	4	5
131	4	4	5
132	4	4	5
133	4	4	5
134	4	4	5
135	4	4	5
136	4	4	5
137	4	4	5
138	4	4	5
139	4	4	5
140	4	4	5
141	4	5	5
142	4	5	5
143	4	5	5
144	4	5	5
145	4	5	5
146	4	5	5
147	4	5	5
148	4	5	5
149	4	5	5
150	4	5	5
151	4	5	6
152	4	5	6
153	4	5	6
154	4	5	6
155	4	5	6
156	4	5	6
157	4	5	6
158	4	5	6
159	4	5	6
160	4	5	6

児童数	40人編制	35人編制	30人下限25
161	5	5	6
162	5	5	6
163	5	5	6
164	5	5	6
165	5	5	6
166	5	5	6
167	5	5	6
168	5	5	6
169	5	5	6
170	5	5	6
171	5	5	6
172	5	5	6
173	5	5	6
174	5	5	6
175	5	5	6
176	5	6	6
177	5	6	6
178	5	6	6
179	5	6	6
180	5	6	6
181	5	6	7
182	5	6	7
183	5	6	7
184	5	6	7
185	5	6	7
186	5	6	7
187	5	6	7
188	5	6	7
189	5	6	7
190	5	6	7
191	5	6	7
192	5	6	7
193	5	6	7
194	5	6	7
195	5	6	7
196	5	6	7
197	5	6	7
198	5	6	7
199	5	6	7
200	5	6	7

...国35人学級編制により学級増となる部分

...国35人学級編制をもとに県30人（下限25人）学級編制により学級増となる部分